

## 首都圏ミートパッカー輸出推進協議会が総会、元年度も和牛輸出拡大へ

首都圏ミートパッカー輸出推進協議会(代表理事＝阿部昌史・㈱ミート・コンパニオン代表取締役)はこのほど、東京・立川市のミートコンパニオン本社で第7回定期総会を開催。平成30年度事業報告や令和元年度事業計画を審議し、すべて原案どおり承認された。また、役員選任では阿部代表理事以下、原田知昌、駒井文彦の両副代表理事、小石伸市、森島了、宮健一、小堀正展、河上貴一、本田一郎、宮下義史の7理事、植井敏夫会計監査役が再任された。

令和元年度は、輸出環境整備推進事業のうち国際的認証資格更新への取り組みとして、製品の安全性と信頼性を目にみえる形で伝えるため、対象施設において第三者による客観的な評価を得られる国際規格SQF、ISO22000認証を更新し、海外のお客からの信頼を高めて輸出拡大を図る。また、海外へ食肉の専門家を派遣し、日本産畜産物の輸出拡大が見込まれる商談会への参加やカット技術指導などの販売促進を実施する。

総会のあいさつで阿部代表理事は「平成から令和へと元号が変わり、新たな時代を迎えようとしている。国内の景気回復も期待されるが、10月からは消費税増税が始まり、消費者の動向も気になる。また、世界を見渡せば米中間の貿易摩擦は混迷を深め、日韓を取り巻く環境も大変厳しい」とした上で、「東京オリンピックを一つの契機として、景気回復が早期実現されることを願っているが、やはりわれわれ自身が行動を起こすことが何よりも重要だ。当協議会が取り組む日本産食肉の輸出推進は、協議会会員同志の交流をより一層図り、販路の確保・拡大に向けたさまざまな知識・情報を共有して、これまで以上に活路を模索し、精力的に展開させていきたい」と述べた。

